

水道週間作品コンテスト受賞者表彰式

■市内小中学校・一般から 669 点もの作品が応募



第 60 回水道週間作品コンテストの表彰式が、11 月 16 日に市役所登米庁舎で行われました。コンテストには市内小中学校と一般の皆さんから合わせて 669 点の応募があり、審査の結果 25 人が受賞しました。

特選・入選作品は、日本水道協会、日本水道新聞社主催（日本水道協会・全国簡易水道協議会・厚生労働省後援）の第 60 回水道週間協賛懸賞募集に出品しました。習字小学生高学年の部において佐々木仁楠さん（佐沼小5年）、作文小学生低学年の部において佐々木美羽さん（登米小3年）、作文中学生の部において黒田恵真さん（東和中2年）が入選に選ばれました。

表彰式では、市長から一人一人に表彰状と記念品が贈呈された後、全国で入選に選ばれた佐々木美羽さんが、受賞した作品「命をつなぐ大切な水」を朗読しました。

受賞した作品は 11 月 26 日までイオンタウン佐沼店内通路に展示しました。



市長が表彰状と記念品を贈呈



作文を朗読する佐々木美羽さん



市長と受賞者全員で記念撮影



イオンタウン佐沼店内通路に展示

■第60回水道週間作品コンテスト入賞者及び入賞作品（敬称略）

◆第60回水道週間協賛懸賞募集（全国コンクール）受賞

入選 習字小学生高学年の部

佐沼小学校5年 佐々木仁楠「水道週間」

入選 作文小学生低学年の部

登米小学校3年 佐々木美羽「命をつなぐ大切な水」

入選 作文中学生の部

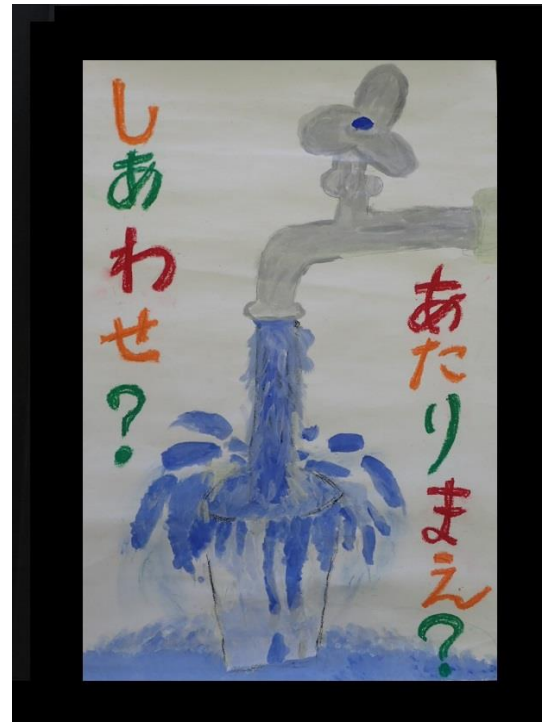
東和中学校2年 黒田恵真「暮らしを支える水道水」

◆第60回水道週間作品コンテスト受賞作品

【図画小学生低学年の部】



特選 新田小3年 石澤姫華



入選 加賀野小3年 寺崎ひより

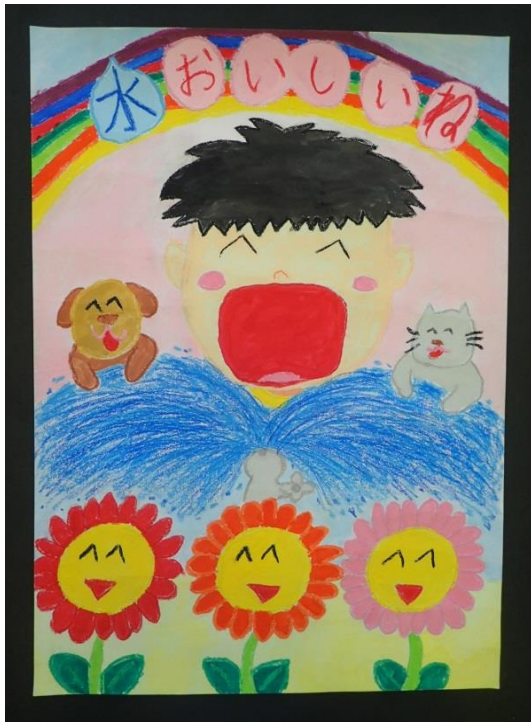


入選 加賀野小3年 鈴木湖遥



入選 浅水小3年 佐々木夢姫

【図画小学生高学年の部】



特選 米山東小4年 浅田竜翔



入選 米山東小5年 佐藤七海



入選 浅水小5年 山内さくら

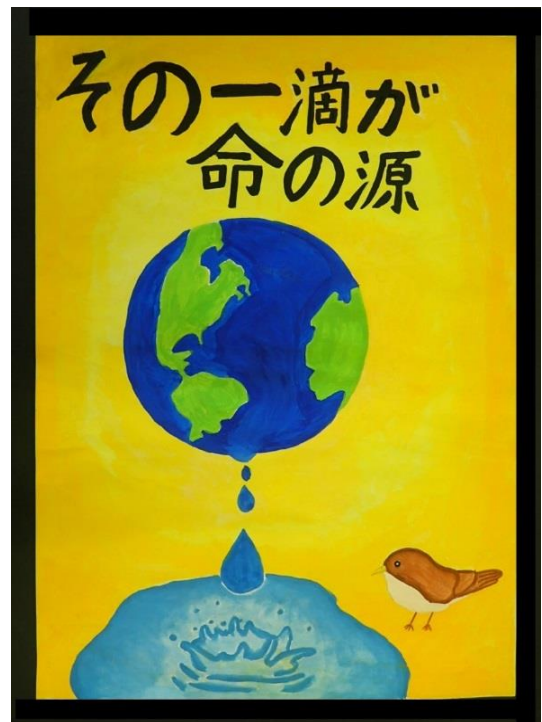


入選 米山東小6年 本田未来斗

【図画中学生の部】



特選 米山中3年 阿部瑞穂



入選 米山中1年 小田嶋知恵里

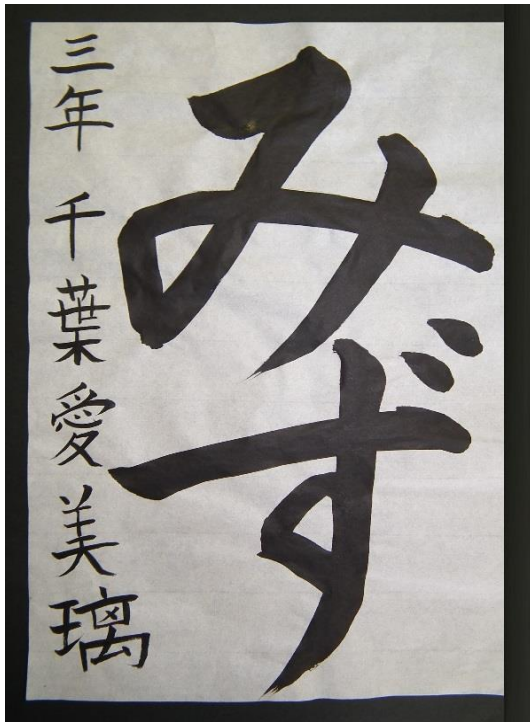


入選 米山中1年 栗原縁

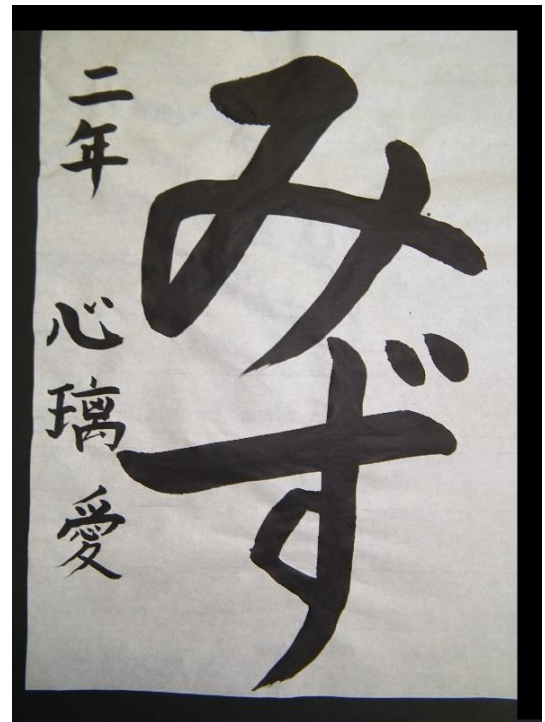


入選 米山中1年 芳賀笑由奈

【習字小学生低学年の部】



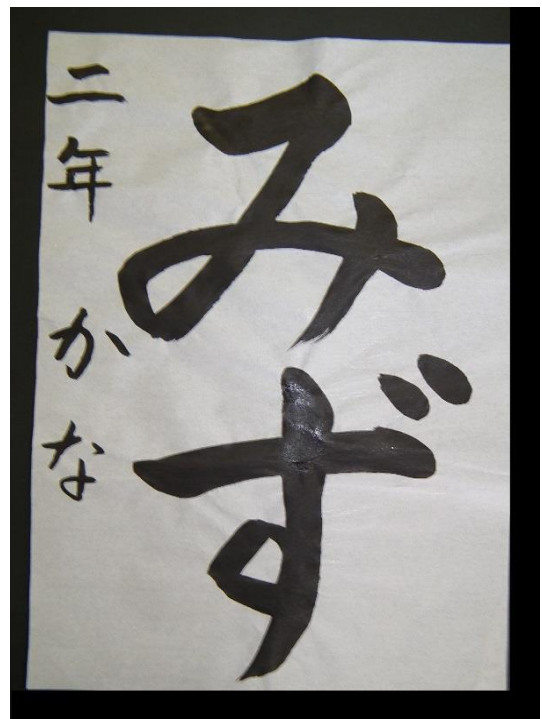
特選 米谷小3年 千葉愛美璃



入選 米谷小2年 千葉心璃愛



入選 佐沼小3年 本間琴音

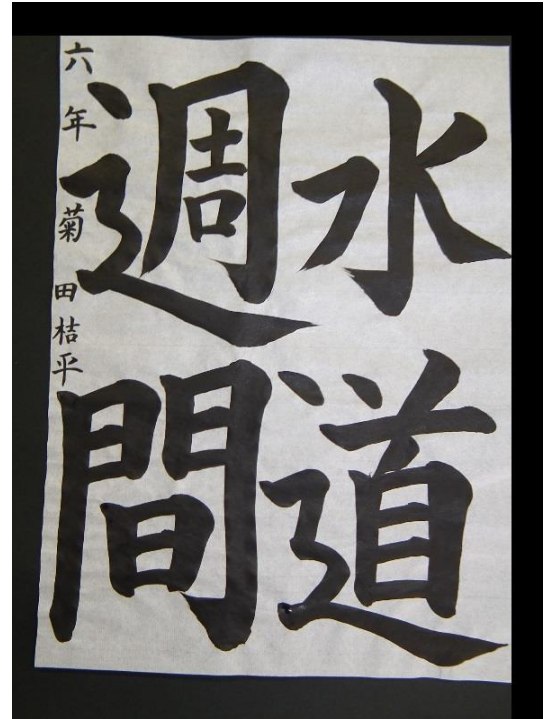


入選 米谷小2年 舟嶋華柳

【習字小学生高学年の部】



特選 佐沼小5年 佐々木仁楠



入選 加賀野小6年 菊田桔平



入選 石越小6年 八巻ゆい



入選 東郷小5年 澁谷一志

【作文小学生低学年の部】

特選 登米小学校3年 佐々木 美羽「命をつなぐ大切な水」

【作文小学生高学年の部】

特選 東和中学校2年 黒田 恵間「暮らしを支える水道水」

命をつなぐ大切な水

登米小学校三年 佐々木美羽

（どうして、おじいちゃんは、水ばかりの
でいるのじ

私のおじいちゃんは、三月十七日、天国へ
行きました。

（きのう、家に帰って来たばかりなのに。
どうして。。じ

と、おじいちゃんが亡くなった日の朝、私は
信じられない気持ちでいっぱいでした。おじ

いちゃん顔は、今にも目をあけて生かえり
りそうなのって、もやさいい顔でした。

「おじいちゃん、おきてー」

と、みんなで声をかけてみたけど、おじい
ちゃん目はあきませんでした。私は、

（きせきがおきて、おじいちゃんが、生きか
えったらいいなあ。）

と思いました。

おじいちゃんは、亡くなる二か月前から入
院生活をおくっていました。そして、亡くな

る十日前から、全くご飯を食べることができなくなりました。でも、毎日、少しずつ水だけは、飲んでいました。

私は

（おじいちゃんは、どうして、水ばかり飲んでいてるのだろう）
と思いました。

人の体の約七十パーセントは、水できています。だから、人間は、水がないと生きてはいけません。水を飲まないと、生き

ていられないことをおじいちゃんは、知っているのです。

（少しでも生きたい。一日でも、長く生きたい。明日まで、生きたい）

そういう思いで、がんばって、水を飲んでいたので、思いました。

こんなおじいちゃんを見て、私は、おじいちゃんの命をつないでくれた大切な水について考えたいと思いました。

牛乳コップ一杯をはい水に流すと、その水

をきれいにするのに お風呂の水、十四はい
分の水がひつようになるそうです。また、油
などは、さらに五倍ぐらいの水がひつよう
になることを知り、水を汚さない生活につい
て考えることが大切だと思いました。

私ができる水をよごさない工夫の一つ目は
シャンプーをむだづかいしないことです。今
まで、私は、シャンプーをするときに、泡を
出すことがおもしろくて、いっぱい出してい
ました。でも、よごした水をきれいにするこ

とは大へんだと知ったので、シャンプーを少
しにして、しっかり泡立てて使うようにしま
した。そうすると、水をむだにせず、少し
のりょうで、かみを洗うこともできるし、水
もよごれずにすみます。

二つ目は、飲み物はい水に流さないこと
です。私は、コップに入れる飲み物のりょう
を少なくして、飲んでいきます。

つ何回も、コップにつぐのは、大へんじ
と思っっているけど、飲める分だけつげば、残

することがないので、水をよごさないですみます。

三つ目は、油をはい水に流さないことです。ママが料理をした後には、フライパンをそのまま流さずに洗うことがありました。でも、洗い終わらなくなった時には、「洗う前に、紙でふいて」と言っていて、一ミリリットルでも油をはい水に流さないようにしています。

おいしいちゃんが、さい後に教えてくれたこと。水は、命をつないでくれる大切なみんなの宝物だということ。

これからも、水の大切さについて、もっともって考えていこうと思います。おいしいちゃんの命をつないでくれた大切な水。私にとっても、みんなにとっても、命をつなぐ大切な大切な水だから。

出	抱	の		し	ペ	れ	に	現	水	し	で	リ	家	れ	じ				
る	負	で	私	違	ット	親	買	地	は	か	は	カ	族	故	た	日	登	暮	
水	で	生	が	和	ト	し	っ	の	あ	し	、	や	の	郷	思	本	米	ら	
は	住	活	訪	感	ボ	ん	た	人	ま	、	猛	シ	仕	で	い	に	市	し	
、	み	面	れ	を	ト	で	水	た	り	暑	も	事	あ	あ	で	帰	立	を	
全	やす	では	地	覚え	ル	いた	を	ち	飲	でも	、	情	り	南	す	国	東	支	
く	い所	、	は	まし	を	た	飲	も	み	日	本	も	ア	ア	。私	し	和	え	
飲	でし	い	、	した	身	私	んで	水	ま	本	の	あ	フリ	フリ	は	た	中	る	
め	した	ろ	南	。水	近	は	いま	道	せ	よう	に	に	カ	カ	、	私	学	水	
な	。水	と	ア	は	に	、	す	の	ん	に	蛇	住	に行	に行	、	は	校	道	
い	道	便	フリ	買	持	多	。日	人	。観	口	い	んで	つて	つて	昨	心	二	水	
わ	の	利	カ	う	参	く	本	が	光	から	ま	いま	き	き	年	の	年		
け	蛇	な	でも	もの	して	の	の	大	客	の	ず	した	まし	まし	冬	底			
で	口	物	中心	でし	いる	水	生	き	だ	南	に	。日	は	た	に	か	黒		
は	か	資	地	た	姿	の	活	な	け	ア	き	本	、	。父	ら	田	恵		
な	ら	が	な		に		に	水	で	フ	ま	南	南	親	痛		真		
い					、		慣	の	なく	ア	ま	ア	ア	の	切				
と					少				、	フ	。日	フ	フ	生	に				
い											本			ま	感				
う																			

生	し	コ	ま		恵	が	取	飲	い	か	私	喉	お	テ	鉄	ま	一	喉	の
活	た	ッ	す	レ	ま	満	り	む	つ	ら	は	を	か	イ	っ	し	口	が	で
場	。 飲	プ	ー	ス	れ	ち	入	こ	で	生	改	潤	わ	ス	ぽ	た	飲	痛	、
面	み	に	と	ト	て	て	れ	と	も	み	め	し	り	ト	い	が	ん	く	飲
で	水	は	頼	ラ	いた	き	た	が	水	出	て	て	し	で	よ	、	で	な	ん
食	は	少	んだ	ン	の	ま	後	で	道	さ	、	く	た	した	う	水	口	る	で
材	や	し	時	で	だ	す	は	き	の	れ	日	れ	く	。 一	何	道	中	と	み
や	っ	の	は	、	と	私	、	ま	蛇	た	本	る	な	も	と	管	に	き	ま
身	ぱ	水	、	感	と	は	俄	す	口	甘	の	水	る	う	表	の	が	あ	し
体	り	し	じ	ま	普	、	然	。 枯	か	み	透	と	思	一	現	味	あ	っ	た
を	買	か	した	通	通	日	い	渴	ら	を	明	は	い	杯	し	わ	っ	た	の
洗	わ	入	。 驚	の	本	本	ろ	した	お	思	感	言	っ	！	に	い	た	で	空
っ	な	っ	か	水	で	の	んな	体	い	い	や	え	き	と	く	て	確	気	乾
た	け	て	れ	道	生	生	な	内	し	水	活	な	り	、	ど	い	認	が	燥
り	れ	い	ま	水	活	活	こ	に	い	を	が	い	ど	も	く	る	し	し	て
す	ば	ま	し	を	が	が	と	水	水	存	実	も	ど	も	ど	の	て	て	い
る	な	せ	た	お	に	に	に	分	分	分	に	で	と	と	と	か	み	て	い
場	ら	ん	。 。	願			や	を	に	は	み	した	と	と	の	、	み	り	て
合	ず	で		い			る	を	に						気				
は				し			気												

利	た	都	分	ナ	な	誠	事	各	す	で	き	豊		や	水	し	水	や	で
用	よ	会	に	ミ	る	意	業	地	ぐ	は	ま	か	例	事	道	た	は	シャ	き
し	う	か	供	ビ	オ	の	が	に	そ	、	し	に	え	情	水	。世	貴	ワ	る
て	な	ら	給	ア	ア	も	整	は	ば	日	た	水	ば	が	を	界	重	ー	か
い	家	離	さ	で	シ	と	備	、	に	本	。そ	を	、	あ	利	各	で	洗	ぎ
る	で	れ	れ	は	ス	で	さ	き	砂	の	の	飲	る	る	用	国	無	濯	り
こ	、	た	ず	、	が	、	れ	れ	漠	田	一	ん	だ	だ	す	の	駄	、	節
と	不	場	困	飲	た	心	、	い	が	園	方	り	り	る	た	自	遣	ト	水
も	衛	所	っ	み	く	が	そ	で	癒	や	で	活	た	め	然	や	い	イ	を
あ	生	で	て	水	さん	や	こ	お	や	さ	、	用	の	の	地	し	レ	掛	
る	な	は	い	や	あ	生	に	い	れ	、	親	し	背	地	形	な	用	け	
よ	状	、	る	活	り	活	に	し	水	健	戚	た	景	、	環	う	の	て	
う	態	廃	人	に	ま	康	必	い	を	の	が	る	も	、	境	に	流	い	
で	の	材	々	要	す	の	な	ま	生	一	い	る	、	様	に	努	し	ま	
し	水	を	が	水	。し	土	な	し	む	変	る	ナ	日	々	よ	め	水	し	
た	を	集	い	が	か	台	な	た	水	し	こ	ミ	本	な	つ	て	な	た	
。日	溜	め	ま	充	し	と	の	の	道	、	と	が	と	条	て	ま	ど	。風	
本の	め	作	た		、		の	の	の		ア	で	同	件			も	呂	

水道水が何度も濾過されて、安全で安心して	飲める状態になっっているのとは、大違いです	水は、人間のみならず生命を持つ全てにとつ	て命の源となる重要なものです。私は、日本	の水道状況を見直し、とても幸せな環境で生	活していると感じました。日本の我が家の水	道の蛇口の向こうで頑張ってくださっている	皆さんに心から感謝したいと思いました。	しかし、水の国として誇れる日本でも、飲	み水や生活で利用する水が、無尽蔵にあるわ	けではありません。津波や震災などの被災地	になった場合は、実際に水道の水が使用でき	なくなりました。東日本大震災があつた年は	私は石川県に住んでいましたが、父親が宮城	県等にボランティアで訪問し、多くの人々が	水を求めていたことを知りました。父たちが	水を提供し、支援していた写真も見たことが	あります。水道から当たり前のように使つて	いる水にも限界があることを肝に銘じなければ	ばなりません。いざというときには、貯水し
----------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	-----------------------	----------------------

水道水を未来へと継承していきたいです。	所も。当たり前前に水道から飲める水に感謝し	あつてもすごく汚くて、すぐには飲めない場	かない所もあるそうです。また、たとえ水が	世界には、一日の水がスプーン一杯ぐらいし	事業所の皆さんとつながることになります。	意識の高さが、尽力してくださっている水道	「これ、ちよつと工夫して水の無駄遣いを減	「そうか」「再利用して活かそうか」などの	水の貴重さに気付くことが必要だと思ひます	こそ、水道を利用する一人一人が生活の中で	水道水は、暮らしを支えています。だから	ら節水を心掛けることが大切だと考えます。	が実を結び、すぐに復活できるように日頃か	事態になつても、みんなで協力していたこと	化や自然災害の影響で水道水が使えない緊急	からびて、異臭を放っていました。地球温暖	の田んぼにつながる水路となつていた川が干	きないのです。以前、日照りが続き、家の前	ている水が無ければ柔軟に対応することがで
---------------------	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------